

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表 (案)

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月9日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、学校・教職員が自主性・自律性を発揮し「学校文化を変える仕組みをつくる」「子ども主体の学び」向かって自ら・ともに「鍛える」「支える」

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒	中学校区として統一した取組等 ・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC 教育を基に、ICT を活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	---	---	---	--

III 自校

ミッション 福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「夢を実現できたのは城北で学んだから」と評価される学校をめざす。学びに向かう力・学び続ける力を育成する学校教育の推進。	新学習指導要領 資質・能力の柱 知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性等
学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 知識・技能 知 思考力・判断力・表現力 関 主体的に学ぶ力 主 他者とかかわる力 他 社会貢献力 社 自己形成力 自
現状 ＜児童生徒＞ 【成果】 「学ビタ3年目」を単元の中に組み込み、主体的に学ぶ力の育成に効果がある授業づくりを行うことができた。 【課題】 教員が授業づくりをサポートしながら、学ビタを行ったが、授業の質などを向上させることが困難だった。 ＜授業＞ 【成果】 生徒アンケートにおいて、授業力に関わる質問項目の肯定的評価の平均値が80%以上であった教科が9教科中2教科であった。 【課題】 全教科において、活用・探求学習を行う割合がまだ少なく、生徒自らがOUTPUT しフィードバックする場面を設定する方法や単元の構成の仕方、および教員の教材研究の仕方に課題がある。	めざす子ども像 学習したことを自ら語れる。 根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手が分かりやすいように伝えられる。 自ら課題を見出し、解決しようとしている。 他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。 他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。 前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。自らに自信を持っている。
	研究 テーマ 主体的な学びの創造(学びに向かう力・学び続ける力を育成する) 内容等 「教材研究」「カリキュラムマネジメント」から授業展開・学習方法を見直し、全校一斉の教科学習「学ビタ」の実施、教材研究「児童生徒観」「教材観」「指導観」→PDCA から学び続ける研修の推進
	めざす授業の姿 知 自らが学んだ知識や技能について、文章でまとめる習慣が身に付けられている。 関 課題解決に向け、自らの考えや課題解決のための方法を見出すための時間や手立てが講じられている。 主 関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられるような教材(題材)が提供できている。 他 グループやペア等の活動を通して、協動的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。 社 地域の課題に自ら目を向け、自分にできることはないかを考え行動化させている。 自 振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追求課題を見いださせている。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 ₇ セ ₇ 達成評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 ₇ セ ₇ 達成評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成	★	継続	主体的に学ぶ意欲・態度の向上	○授業において、主体的に学ぶ意欲・態度の向上を目的に、全職員で課題を作成し、全校教科学習「学ビタ」を実施する。 ○実技教科とリンクさせ、横断的な学びを創造する。	○生徒アンケートにおいて、主体的に学ぶ意欲・態度に係わる質問項目の肯定的評価の割合をすべて 80%以上にす	○学ビタと学ビタ担当チームを中心に、「横断的な学び」と「学ぶ原動力」を創造するための協議を重ね、質の高い授業設計を行った。 (年3回実施) ○肯定的評価が80%以上であった教科は、 1年:1/9教科中 2年:4/9教科中 3年:1/9教科中であった。	3	2	○身近な生活に関連した興味開発を教科チームの枠を越えて考え、学習する意味や、学んで良かったと思える授業を提供する。 ○教科会を定期的に開催し、様々な単元で興味開発をした授業実践等を交流する。(月に1回) ※興味開発…生徒の心火がつく驚きと感動の種となる授業のこと。	○学ビタでは、世界の情勢などを総合的に学べるよう工夫された授業を展開し、国によって特性や歴史が背景にあることを学ばせることができた。 (年3回中2回実施) ○肯定的評価が80%以上であった教科は、 1年:2/9教科中 2年:3/9教科中 3年:4/9教科中であった。	3	3	3	○学ビタに限らず、普段の授業内で無我夢中になる5つの条件などを指標にし、教科担任が振り返れるようなシステムを構築する。また、興味開発した授業実践の交流を積極的に行い、個々の教員の授業力の向上を目指す。
			継続	確かな学力の定着	○5月に行う学力の伸びをみとるテスト(全学年対象)及び全国学力・学習状況調査(3学年対象)において、個別の課題について分析し、校内研修において後期の学習計画を立て、それをもとに生徒面談及び授業改善を行う。	○全国学力学習状況調査(3学年)正答率において、全教科全国平均以上にす。 ○学力の伸びをみとるテスト(全学年対象)の結果がどの層の分布も右肩上がりにする。	○全国学力学習状況調査の正答率は全教科全国平均以下だった。 ○学力の伸びをみとるテストの結果が全ての層とはいかなかったが、ほぼ全ての層が右肩上がりだった。	3	2	○生徒質問紙の結果から見えた本校の課題である自己表現ができる生徒の育成を目指し、全職員で課題を共有し、授業改善や教材研究に取り組む。	○全国学力学習状況調査や学力の伸びをみとるテストの結果分析シートを作成した。 ◎結果分析シートから、「根拠をもとに意見を述べること」に重点をおき、引き続き授業改善を行っている。	3	2	3	○来年度の学力の伸びをみとるテスト及び全国学力・学習状況調査に向けて、個別の課題を分析し、各教科会で準備を行っている。
			継続	自律的に行動できる生徒の育成	○生徒会を中心とした、生徒主体の学校運営の実施。(自治活動、縦割り集団を軸とした学校行事、学校給食等) ○一斉の部活指導日を設け、生徒・教職員共に部活動の充実を図る。	○生徒アンケートにおいて、「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の項目の肯定的評価を95%以上にす。	生徒アンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒は95%であった。執行部を中心に、学校全体の課題を見取り、取り組みを決めるなど主体的な取り組みができている。	4	5	引き続き、生徒会活動を支援できる体制づくりを行い、生徒会を中心に、生徒が課題を見つけ改善していこうとする姿勢の育成を図る。	生徒アンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒は90%であった。執行部が実生活を振り返りながら、内容を見直し、全校生徒が主体的に取り組めるような活動を推進・実施することができている。	4	4	4	新執行部になり、来年度の活動がより主体的になるように、生徒会担当の職員だけでなく、全教職員が支援を行い、生徒会活動の充実を図る。
2	教職員の資質・能力の向上	★	継続	専門教科の授業力の向上	○自律を促す授業を行うためのスキルアップ研修を行う。 ○教科会や職員研修等で個々の教材研究を共有し、実践を蓄積	○教職員アンケートにおいて、「自律を促す学びの創造に向けた、単元開発及び実践を行って	○生徒が自律をした状態(目標イメージ)を共有し、その状態を達成するための手段を	2	2	○日々の生徒の様子を交流しながら、目指すべき姿に近づいているか細かく確認する。その上で、手段を調整し、	○自律自走する授業の構成や条件などを共有しきれなかったが、実践は取り溜めていくことができ	2	3	3	○自律を目指していく手段を教職員の中で合意形成しながら、丁寧に進める時間や場を提

				していく。	る」の項目の肯定的評価を80%以上にする。	協議した。 ○教職員アンケートによる肯定的評価は60%であり、目標に届かなかった。			月に1回ほど職員研修などで、全体に共有・協議していく。さらに、各教職員のスキルアップを図る。	いる。 ○教職員アンケートによる肯定的評価は78%であった。				供していく。
		継続	学ビタを通じた授業力の向上	○全校教科学習「学ビタ」を年3回実施する。 ○担当を中心に、教科横断的な校内研修を行い知識・スキルの向上を図っていく。	○教職員アンケートにおいて、『子どもが学ぶ』とはどういうことか、他の教職員と話したり考えたりしている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。	○教職員アンケートにおいて、『子どもが学ぶ』とはどういうことか、他の教職員と話したり考えたりしている」の項目の肯定的評価は46.2%だった。	2	2	○全校教科学習「学ビタ」を実施する期間や年間回数を検討する。 ○月1回の教科会を設定し、教材研究や学ビタに関し、教員同士の研修時間を確保する。	○今年度も学校行事など忙しい中で、全校教科学習「学ビタ」を年3回実施することができた。 ◎評価指標である教職員アンケート第2回を現在集計中である。(2024.2.2現在)	3	2	3	○「学ビタ」自体は生徒アンケートからも大変有意義なものになっているが、担当する教職員の負担や学ビタを通じた授業力の向上にまでは至っていない。今後、継続していくかどうかも含めて検討していく。
		継続	生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を見据えた、生徒指導力の向上	○校内研修において、個々の生徒に寄り添う生徒指導をめざし、細やかな生徒交流やSCによる研修など、生徒指導部主催による研修等を定期的に行う。	○教職員アンケートにおいて、「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。	教職員アンケートにおいて肯定的な評価は70%であった。しかし、SCの研修をはじめ、各研修で実施した内容をもとにきめ細やかな生徒理解に努めようとしている。	4	3	定期的に研修を行うだけでなく、関係機関とも連携して、細やかな生徒理解を円滑に行うことができるような体制づくりを継続して行う。	教職員アンケートにおいて肯定的な評価は89%であった。細やかな生徒理解を通して、主体的に学ぶ姿勢を構築するような授業づくりを積極的に行うことができる。	4	4	4	定期的な研修の機会を提供し、教科活動と生徒指導を横断した学習活動になるように、全教職員が共通認識の中で生徒の成長を支援できるような体制を作っていく。
2	地域に貢献する学校	継続	本校の取組や活動の地域への発信	○学校だより、学年だより、保健だより、HP、メール配信及び行事等において、本校の取組みや活動に関わる情報発信を積極的に行う。	○保護者アンケートにおいて、「城北へ行かせてよかった」の項目の肯定的評価を95%以上にする。	○保護者アンケートによる肯定的評価は91%であり、目標に届かなかった。	3	2	○HPやclassroomなどで、生徒の学習の様子や、情報の伝達を多く発信することを継続していく。	○HPの迅速な更新が多少、滞っていたので、リアルタイムに更新することを徹底する。 ○保護者アンケートによる肯定的評価は、90%であった。	3	3	3	地域に学校の様子が分かるように、写真に関わらず、動画や成果物の掲示などを積極的に発信していく。
		継続	総合的な学習の時間を軸とした、地域理解・社会貢献学習の充実	○総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価を90%以上にする。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価は73.8%だった。	3	2	○全学年それぞれの取組の中で、地域の方々と共に学習を深める場の設定はできたが、評価指標の数値達成とはならなかった原因を検討し、後期の学習に繋げていく。	○1年生「バラ会議」 2年生「職業体験」 3年生「SDGs(服の回収)」と全学年で地域と連携した取り組みを行った。 ◎評価指標である生徒アンケートの肯定的評価は78.6%だった。	3	2	3	○どの学年も地域と関わりながら、取り組めたとはいえるが、生徒一人一人が地域と関わった取組とまではならなかった。表面的な関わりだけでなく、探求的な関わり方や短期ではなく、中・長期的な関わり方を模索していく。

		継続	<p>集団の一員としての自覚を高め、責任感を育成</p>	<p>○学校内での美化活動に主体的に取り組めるよう、美化委員を中心とした取り組みを推進し、行内の環境整備、環境美化を充実する。</p>	<p>○生徒アンケートにおいて「一生懸命清掃しています」の項目の肯定的評価を95%以上にする。</p>	<p>生徒アンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒は98%であった。清掃はしっかりとできている。しかし、机の整頓やロッカ一等の教室環境などきめ細かい環境整備に課題がある。</p>	3	5	<p>掃除時間だけでなく、授業中や学活等で環境整備の意義や、よい環境がもたらす効果等の情報を提示し、生徒の意識を高めていく。</p>	<p>生徒アンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒は92%であった。毎日の清掃活動にしっかりと取り組むことができている。机やロッカ一の整理整頓、黒板を掃除など、教室環境の整備も改善されている。</p>	4	4	4	<p>整った環境の中で生活する喜びや、環境を維持することの重要性を生徒が自ら感じることができるように、生徒会活動や日々の清掃を充実させていく。また、教職員の定期的なチェックを継続していく。</p>
--	--	----	------------------------------	---	---	--	---	---	--	---	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。